

7 番（小川義昭君）

議席番号 7 番、小川義昭です。

通告に従いまして一般質問を行います。

今回の平成 25 年 3 月市議会定例会は、白山市発足 3 回目の市議選挙で当選した議員による初議会であります。8 年前の 1 回目の選挙は、移行措置である旧市町村を基礎とした区割り選挙でありました。前回 2 回目で選挙区は全市 1 区、定数 28 となりましたが、無投票でありました。今回の 3 回目は全市 1 区に加え、議会改革で定数を 28 から 21 に削減し、白山市本来の初の制度実施となり、27 名が立候補し当選者 21 名が今議会に臨んでおります。

それだけに私を含め、新しい制度で選出された議員と市議会が、市民から負託された責任と期待とは何か深く思うところであります。中でも私は何よりも地域利害を超えた全市的な視野と資質の向上が問われていると考えます。1 期以来、追求してきた開かれた市政・議会、市民の市政参加の拡大を改めてみずからの課題とし、3 期目となる議員の責務を果たしていく所存であります。

私の今定例会における質問は、大きく分けて 2 つであります。

その 1 つは、今回の市議会議員選挙の開票速報の検証と今後の投票率向上策についてであり、その 2 つは、情報公開と白山市公共施設の統廃合及び見直し方針についてであります。

1 つ目の質問に入ります。

8 年ぶりに行われた今回の白山市議会議員選挙は、定数を 28 名から 7 名減らした定数 21 名に対し 27 名が立候補いたしました。全市 1 選挙区となった前回は無競争選挙となり、実際には今回が全市 1 選挙区初の選挙戦になっただけに、私を含めた各候補者の陣営は旧市町村域の枠を超えた新たな選挙戦の様相を展開したところであります。

選挙結果を投票率から見てみます。期日前投票者数は今回 1 万 243 人で 8 年前の選挙の 5,238 人を大きく上回り、ほぼ 2 倍に上りました。白山市制初の 8 年前の選挙は、8 つの旧市町村の区域別に実施され、しかも無投票の選挙区域もあって一概には比較できませんが、今回は有権者見込み数の約 11%の方が期日前投票を行っていて、全体投票率も上々かとの観測がありました。

しかし、残念ながら最終投票率は 64.65%と 8 年前の投票率 72.4%を大幅に下回りました。確かに断続的に雪が降る天候の影響もあるでしょうが、これまで絶えず 90%近かった白山ろく地域を含めて市内全域で投票率が下がったことは、全市 1 選挙区制や定数立

候補者が減ったことに対し、有権者の投票参加に課題を残したといえるのではないのでしょうか。

一方、今回の選挙は8年ぶり、しかも全市1選挙区として初めて大いに注目されたわけですが、市選挙管理委員会の対応はどうだったのか。例えば開票速報に対しても、私たち候補者のほか、市民の皆さんからも多くの不満の声を聞きました。市選管は午後9時10分より開票を行い、9時半から30分ごとに中間結果を発表するとの案内でしたが、10時半の開票率約36%の得票数を発表して以降、午後11時と11時30分の2回の開票速報の発表が一切なく、1時間半以上を経過した午後11時46分にいきなり確定票を出す始末でありました。

そこで、1番目の質問を行います。

1点目、市選挙管理委員会は、開票速報に際し案内どおりの開票速報を行わず、2回の開票速報を見送り、しかも1時間半以上経過した後に最終確定票を出さざるを得なかったが、どこに原因があったのか。

2点目、今回の開票に限らず、投票事務を含め投開票事務に携わった事務職員の研修及びチェック体制はどのようになっていたのか。

今回の開票速報の不手際に対する再発防止策、及び今後の開票速報をどのように考えているのか。

以上につきまして、初めての答弁かと思われませんが、市選挙管理委員会委員長の説明を求めます。